

角に開くには、TRANSNATIONAL NETWORKを背景にもたねば立ちむかえなくなるであろう。

本稿を終えるにあたって図1は、今後の金融環境の変化に対し銀行がどのようなシステム対応を目ざすものかを示すものである。またこれからのDB/DC開発に際しては、STEP BY STEPというよりもむしろPHASE TO PHASEの考え方が重要となるであろう。それは、経験的に必要とされてきた情報よりも突発的に必要となる情報が多くなると予想されるからである。A.P.によってどこまで対応可能かは予測できない。

いっけんDB/DCと情報処理の先端を走っている

るかのごとく聞えるが、その処するところは非常に泥臭いことの積み重ねであることを述べて本稿の終りとする。

参 考 文 献

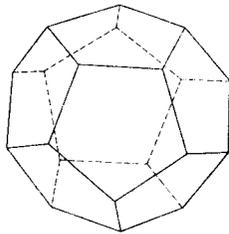
[1] R. G. Murdick & J. E. ROSS : *Information Systems for Modern Management*, Prentice-Hall, 1975.
 [2] J. ヒルシュマイヤ & 山井常彦 : 日本の経営発展 東洋経済新報社, 1977.

こんどう・しょうじ 1946年生
 名古屋大学 理学部数学科
 第一勧業銀行 事務部 事務企画課

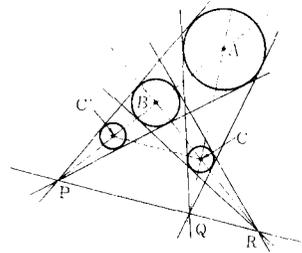
フォーラム

数理パズルを楽しもう (9)

問題 正十二面体は、同じ形の12個の正五角形を、図のように立体的につなぎ合わせればつくれます。いま、ボール紙にこの展開図をかき、それを切り抜いて正十二面体をつくりたいのですが、正確な正五角形を12個もかくのは大変です。なんとか、簡単な作図で済ませたいのですが、どのような展開図をどんな方法でかけばいいでしょうか。



[6月号(365ページ)の解答] ちょっと考えるとむずかしそうであるが、まったくエレガントな解法がある。図のように、円Aと円Bの2本の共通外接線に接するように、円Cと同じ半径の円C'をかき、いま、この2本の共通外接線の交点をPとすれば、円Aの中心と点Pを結ぶ直線は、明らかに円Bの中心と円C'の中心を通る。同様に、円Aと円Cの2本の共通外接線の交点をQ、円Bと円Cの2本の共通外接線の交点をRとすれば、3点A, C, Qは一直線上にあり、3点B, C, Rも一直線



上にある。

そこで、まず△APQについて考えると、AP/C'Pは円Aの半径と円C'の半径の比に等しく、AQ/CQは円Aの半径と円Cの半径の比に等しい。円C'は、円Cと同じ半径になるようにかいたのであるから、

$$AP/C'P = AQ/CQ$$

となり、線分PQと線分C'Cとは平行である。同じことを△BPRについて考えれば、線分PRと線分C'Cも平行になるから、3点P, Q, Rは一直線上にのっている。

なお、この問題は [1] に紹介されている。

[1] Graham, L. A., *Ingenious Mathematical Problems and Methods*, Dover Pub., New York, 1959. (中村義作 信州大学工学部)

FORUM